


原篤司 2022年6月9日 11時00分



旧大川小で、佐藤敏郎さん(左)の話を聞く校長ら
=2022年6月8日午前10時27分、宮城県石巻市釜谷、原篤司撮影 

宮城県内の新任校長が東日本大震災の被災地を訪れる防災研修が8日、同県石巻市の旧大川小などで開かれた。今年で3年目の取り組みで、小中高校と特別支援学校の校長計89人

が参加し、遺族らの話に聴き入った。

大川小6年生だった次女を亡くした元中学教諭の佐藤敏郎さん(58)は、震災前の大川小の日常や、津波で児童・教職員の計84人が犠牲・不明となった時の様子などを語った。津波到達の1分前によく避難が始まった時に子供たちが急いだ道を、校長らと一緒に走ってたどった。

現役の中学校長で、当時同小6年だった長女を失った平塚真一郎さん(55)は講演で「学校は命を預かると同時に、子供たちが生き抜く力を身につける所だ」と語りかけた。

参加した亘理町立逢隈(おおくま)中の星直美校長(52)は「マニュアルにないことも起こりうるのが災害だと改めて感じた。臨機応変に動くにはどうすればいいか、学校に戻って考えたい」と話した。(原篤司)